

料は 36 品種に及んでいる。

4. あとがき

BAS が、英国内協力者の緊密な協力のもとに BCS-CRMS など、また ECISS/TC20 と協力して EURONORM CRMs を製造・販売している姿を目の当たりにして感慨深いものがあった。このような業種で個人経営が成り立っているのは、この会社の 65 年に及ぶ歴史と、その間に培ってきた信頼関係及び立地環境条件の良さが物を云っているものと考えられる。

なお、この BAS 訪問には (株)コベルコ科研の河村恒夫氏川崎製鉄(株)の岡崎輝雄氏及び(社)日本鉄鋼協会の大槻孝氏も同行され、種々協力していただいたのでここに記して感謝する。一行は、BAS 本社を見学後、Ridsdale 社長の招待で BAS 幹部と昼食をともにして別れを告げた。別れに際して日本鉄鋼標準試料 (JSS) の

見渡せば遙かなる緑の野
ミドルスブラーのこの好環境
世界に冠たる BCS の
生れるところ
BAS に憶う
過ぐしかた二十年來の
我が夢叶い
今ぞ立つニュー公ホルの丘
一九九〇年五月三日
日本鉄鋼協会
大槻 孝

Fig. 2. "Emotions at BAS" by Mr. T. OTSUKI.

幹事役を 20 年間続けた大槻氏が感慨をこめて作られた詩文を社長に贈呈した。なお、帰国後 ISO/TC 17/SC/Secretary の柿田和俊氏が訳してくれた英訳文も届けて JSS と BAS の関係をより緊密なものにした。

文 献

- 1) 例えば Bureau of Analysed Samples Ltd. Report No. 567 on the Twentieth Period of Working December 1983 to November 1986
- 2) Production and Use of Reference Materials, ed. by Editor B. E. SCHMITT, BAM (Berlin) (1980)
- 3) Bureau of Analysed Samples Ltd. Certified Reference Materials Catalogue No. 572 March (1989)
- 4) ECISS Information Circular 4th Edition (1990) March

“夢” 募集願末記

鉄と鋼 1988 年 9 月号 (Vol. 74), p. 1888 および 1990 年 6 月号 (Vol. 76), p. 977 で、鉄鋼研究に関する“夢”を募集しました。この記事が、全く意外にも、朝日新聞社の記者の目にとまり、筆者に取材にこられ、この記事が全国紙と西日本版に紹介されてしまいました。全国紙の威力は大きく、“鉄と鋼”(“はがね”と読める人は少ないということも分かりましたが)の読者からは、何の応答もなかったのに、いろんな方々からお手紙や、ご提案をいただきました。さすがに、歴史の古い材料である鉄に関しては、市井の方々も関心をお持ちであることが分かり、心強く感じました。

いただいたお便りをすべて掲載する訳にはいきませんが、その一部をご紹介させていただき、関心をお持ちいただいた方々に、心からお礼申し上げます。また、私共も、お互いに常に夢を持ち、育てていきたいものです。

(大阪大学工学部 教授 大中逸雄)

談話室

一老兵の夢

大中 都四郎

2 千年の長きにわたって鉄、鋼の生産は大気と耐火材料の入れ物との中で、液相反応として取り扱われて来た。

そして製鋼反応の研究とはその大気の酸素と耐火物の酸素との戦いであったと言っても過言ではない。

この製鋼反応をなぜ気相反応として捕らえることができないのであろうか。

無重力状態の真空容器の中へ Pure Fe や Pure C, Ni, Cr を噴射すれば、Fe や C, Ni, Cr の原子は自由に飛び交って最も均一な混合状態となる。これを冷却盤上に堆積させるのである。

これを取り出して鍛造効果を与えれば、その強度は従来のものに比べて遙かに高いものとなろう。

更に必要に応じて特定の有機物質を噴射すれば全く新しい合成物質(新合金)の開発も可能となるのではない。

無重力状態の代わりに鉄の磁性を利用することも考えられる。

とにかく、固相や液相の Fe ばかりでなく気相の Fe にもっと馴染む必要があると思えてならない。

~~~~~